

## 秋の学術講演会 抄録

### 講演1 「小児の口腔機能発達不全症の診かた」

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 教授  
田村 文誉 先生

小児の口腔機能については、以前より特に小児歯科の分野で取り組まれてきました。しかし、その対象はいわゆる咬合や舌小帯の異常など、器質的問題への対応が多くを占めていました。もちろん、口腔機能の問題は器質的な原因の場合もありますが、一方で、器質的問題がないにもかかわらず、食べたり話したりする機能がうまくいかない小児も一定数存在します。そこで口腔機能の専門家である歯科から、特に「食」の問題に対応できるようにしよう、ということを目指し、平成30年4月に「口腔機能発達不全症」が新病名として歯科医療保険に収載されました。当初は乳臼歯の咬合が無い乳幼児を対象とすることが難しかったのですが、令和2年にはその管理の対象が離乳完了前までに拡大され、哺乳や離乳の指導もできるようになりました。

演者の外来では、摂食機能障害児の摂食指導（摂食機能療法）を専門として行っています。その中で、定型発達児であるにもかかわらず口腔機能の問題が生じ、診療を希望するケースが散見されています。その多くは目に見えるう蝕や歯並びなどの問題だけでなく、実はさまざまな背景をかかえており、生半可な気持ちで対応しても改善は難しいと感じています。本講演ではいくつかの事例を通じて、口腔機能発達不全症の診かたについて考えていきたいと思っております。

#### <ご略歴>

- 1989年 昭和大学歯学部卒業
- 1989年 昭和大学歯学部第三補綴学教室入局
- 1991年 昭和大学歯学部口腔衛生学教室入局
- 2001年4月～2002年3月  
米国アラバマ大学歯学部補綴学・生体材料学教室留学
- 2004年 日本歯科大学・講師
- 2007年 日本歯科大学・准教授
- 2012年 日本歯科大学口腔リハビリテーション科・科長  
日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック勤務
- 2013年 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック・教授

## 講演2 「診療室で実践する！ 高齢期の口腔機能管理」

東京歯科大学老年歯科補綴学講座 教授

上田 貴之 先生

高齢期のオーラルフレイルや口腔機能低下症は、障害の一步手前の段階であり、この段階で手を打つことが大切である。しかし、障害のレベルではないため、患者自身が低下に気が付かないことも多い。そのため、歯科診療所で歯科医師や歯科衛生士が口腔機能の低下や低栄養を発見し、対応することが大切である。私たちがチェアサイドで、日常臨床の合間に簡単に実践できる口腔機能管理と栄養指導についてお話ししたい。

### <ご略歴>

- 1999年 東京歯科大学卒業
- 2003年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
- 2003年 東京歯科大学・助手
- 2007年 東京歯科大学・講師
- 2007年 長期海外出張（スイス連邦・ベルン大学歯学部補綴科客員教授）
- 2009年 東京歯科大学復職
- 2010年 東京歯科大学・准教授
- 2016年 文部科学省高等教育局医学教育課技術参与（2018年まで）
- 2019年 東京歯科大学・教授